

中学校国語科学習指導案

広島県立教育センター
指導主事 河原 宜央

1 学 年：第3学年

2 単元名：「教科書に載せたい『論語』の一節を見付けよう」

3 教 材：「論語」（教科書掲載）、「論語」の書き下し文及び現代語訳が掲載されている書籍

4 単元観

本単元は、「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見をもつこと」（〔思考力、判断力、表現力等〕C 読むこと(1)エ）及び「長く親しまれている古典の一節を引用するなどして使うこと」（〔知識及び技能〕(3)イ）を重点的に指導する目標として設定する。

上記の事項は、「論語」を読んで、その内容を現代の人間や社会と結び付けて考えたことを、その一節を引用するなどして文章にまとめる言語活動を通して指導する。「論語」は古くから日本においても読み継がれ、その人間や社会の在り方に関する鋭い洞察や思索から、現代もなお人々のものの見方や考え方に影響を与えており、本単元の目標の達成に向けた学習にふさわしい教材である。

5 生徒観

生徒は第2学年までに、現代の説明的な文章、文学的な文章を読んで、自分の考えをもつ学習を行ってきた。また、古典を朗読したり、現代語訳などを手掛かりに作品を読み、古典に表れたものの見方や考え方を知る学習も行ってきた。

一方で、生徒にとって古典は「昔のもの」という印象が強く、古典の内容（登場人物の心情、ものの見方や考え方等）と現代に生きる自分の経験や考えなどを結び付け、そこから自分の考えをもつことについては十分にできているとはいえない。また、令和4年度広島県公立高等学校入学者選抜の一般学力検査の結果の概要では、「文章の内容を捉え、古典に表れたものの見方や考え方を取り入れて自分の考えを形成し、それを適切に表現する力」を問う問題において課題がみられた。

本単元では、第2学年までに学習したことを想起させつつ、上記に課題として示した資質・能力の育成に向けた指導を進めていく。

6 指導観

上記の課題を踏まえ、生徒に目標とする資質・能力を育成するために、次の二点の工夫をする。

① 目標と言語活動のつながりを理解できるようにした学習課題

本単元では、自分が教科書の編集者であるという設定で、「論語」の一節について、現在使用している教科書に掲載されているもの以外で掲載にふさわしいと考える一節を選び、それを選んだ理由を意見書として書く言語活動を学習課題として設定する。この学習課題の、「論語」を扱う架空の単元の目標を、本単元の「思考力、判断力、表現力等」に相当する目標（人間、社会などについて、自分の意見をもつことができる）と一致させ、その目標を達成するのにふさわしい一節を検討させることで、常に目標を意識して、言語活動に取り組み、一節の内容と現代の人間や社会を結び付けて考えをもつことができるようになることを意図している。

② 目標の達成のためにふさわしい一節の条件の検討

目標を示しただけでは、一節の内容と現代の人間や社会とをどのように結び付けたらよいか分からない生徒もいると考えられるため、グループで目標の達成のためにふさわしい一節の条件を検討し、一節と現代の人間や社会とを結び付ける視点をもたせる。条件としては、例えば「現代の人の心や行動、社会にも当てはまる内容である」「中学生も経験や実感したことがあり、共感できるものである」ということが想定され、こうした条件を基に、一節の内容に当てはまるような経験が自分自身にないかどうかなどと考えるようにする。

7 単元の目標

- 長く親しまれている古典の一節を引用するなどして使うことができる。 [知識及び技能]
- 文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見をもつことができる。 [思考力、判断力、表現力等]
- 言葉がもつ価値を認識するとともに、読書を通じて自己を向上させ、我が国の言語文化に関わり、思いや考えを伝え合おうとする。 [学びに向かう力、人間性等]

8 言語活動

自分が教科書の編集者であるという設定で、「論語」の一節について、現在掲載されているもの以外で掲載にふさわしいと考える一節を選び、それを選んだ理由を意見書として書く言語活動。

(C 読むこと 言語活動例アに基づく)

9 単元の評価規準

知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
a 長く親しまれている古典の一節を引用するなどして使っている。	b 「読むこと」において、文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見をもっている。	c 学習課題に沿って「論語」の一節を読み、そこに表れるものの見方や考え方について、積極的に人間や社会と結び付けて意見をもとうとしている。

10 カリキュラムを構成する問い

本質的な問い	◆古典を学ぶ意義は何か。
単元を貫く問い	◆「論語」のどのような点が、現代の人間や社会について考えるのにふさわしいだろうか。
個別の問い	◆「論語」とはどのような文章か。(歴史的背景) ◆「論語」にはどのようなことが述べられているか。 ◆共感したり、考えさせられたりした「論語」の一節はどれか。 等

11 単元の指導と評価の計画 (全4単位時間)

◇：指導・学習の改善に生かす評価 ◆：記録に残す評価

時	学習活動	知	思	主	評価方法
1	○ 単元の目標と評価規準、学習課題を確認し、学習の見通し				

	<p>をもつ。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 第2学年までに学習した古典作品を想起し、自分に照らして感じたことなどについて挙げ、学級全体で共有する。 ○ 「論語」がどのような文章であるかを理解する。 ○ 教科書に掲載された「論語」の一節を読み、要旨を捉えるとともに、共感したり、考えさせられたりした一節を取り上げ、どのようなところからそう思ったり考えたりしたのかをペアやグループで説明し合う。 			◇	(主)交流の様子、「振り返りシート」
2 ・ 3	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで学習課題に沿って、教科書に掲載するのにふさわしい「論語」の一節の条件を考え、学級全体で共有する。 ○ 「論語」(書き下し文・現代語訳付き)を読み、その中から教科書に掲載するのにふさわしい一節を選ぶ。 ○ 選んだ一節について、そこに表れているものの見方や考え方や現代の人間や社会とを結び付け、選んだ一節を引用して、教科書に掲載するのにふさわしい理由を意見書として書く(下書き)。 ○ 各自の下書きをグループで読み合い、学級で共有した条件に沿って相互評価を行う。 	◆	◇		(知)「意見書」の下書き (思)「意見書」の下書き
4	<ul style="list-style-type: none"> ○ 前時の相互評価を受けて下書きの加筆・修正をする。 ○ 加筆・修正したメモに基づいて、教科書に掲載するのにふさわしい「論語」の一節についての意見書を書く(清書)。 ○ 清書した意見書をグループで読み合い、前時に共有した条件に基づいて感想を述べ合う。 		◆	◆	(思)「意見書」 (主)「振り返り」、「意見書」及びその推敲履歴

12 単元の流れ

時	学習活動	指導上の留意点	評価規準・評価方法等
1	<ul style="list-style-type: none"> ○ 単元の目標や学習課題を確認し、学習の見通しをもつ。 ○ 第2学年までに学習した古典作品を想起し、現代の自分との共通している 	<p>〔学習課題〕</p> <p>あなたは中学校国語の教科書の編集者です。教科書を改訂するに当たり、現在の3年生用の教科書に掲載されている「論語」の一節に、もう一節を加えることになりました。「論語」を扱う単元の目標は「『論語』を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見をもてるようにすること」です。</p> <p>あなたならどの一節を加えますか。その理由を、選んだ一節を引用して意見書として書きなさい。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ○ 「枕草子」や「徒然草」などの内容を想起させ、現代の自分との共通点や相違点を挙げさせる。

	<p>ことや違いを感じたことなどについて挙げ、学級全体で共有する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ○ 「論語」がどのような文章であるかを理解する。 ○ 教科書に掲載されている「論語」の一節を読み、要旨を捉えるとともに、共感したり、考えさせられたりした一節を取り上げ、どのようなところからそう思ったり考えたりしたのかをペアやグループで説明し合う。 ○ 振り返りを書く。 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 古典を現代の自分に引きつけて考えることが学習課題に取り組むポイントになることを示す。 ○ 儒家の考え方など特に現代にも通じる事項を取り上げる。(ただし、詳細にし過ぎないようにする。) ○ 現代語訳を手掛かりに述べられていることの要旨を捉えさせる。 ○ 一節を取り上げる際には、学習課題を念頭に、まずは現在の教科書に掲載されている一節に表れているものの見方や考え方が、現代の人間や社会にどうつながっているのかに着目させる。 ○ 学習課題に取り組むために、どのようなことがポイントになるか、これまでに学習してきたことでどのようなことが生かせそうかについて記入させる。 	<p>(知)交流の様子、「振り返りシート」</p> <p>取り上げた一節の内容と、現代の人間や社会とを結び付けて考えようとしているかを確認する。</p>
2・3	<ul style="list-style-type: none"> ○ グループで学習課題に沿って、教科書に掲載するのにふさわしい「論語」の一節の条件を考え、学級全体で共有する。 ○ 「論語」(書き下し文・現代語訳付き)を読み、その中から教科書に掲載するのにふさわしい一節を選ぶ。 ○ 選んだ一節について、そこに表れているものの見方や考え方と現代の人間や社会とを結び付け、一節の一部を引用して、教科書に掲載するのにふさわし 	<ul style="list-style-type: none"> ○ 学習課題に示している目標を念頭に検討させる。(想定される条件) ・現代の人の心や行動、社会にも当てはまる内容である。 ・中学生も経験や実感したことがあり、共感できるものである。 ○ 文庫版の書籍を一人一冊用意することが望ましいが、指導者側でいくつかピックアップしたものを示すことも考えられる。(生徒の実態等によっては、第1時後に家庭学習において選定させておく。) ○ 意見書はワープロソフトを使用して入力する。 ○ 意見書に盛り込む内容として、次の点をノート等にメモをさせておく。 ・一節の要旨 	<p>(知)「意見書」の下書き</p> <p>選んだ一節(の一部)を引用するなどして、自分の考えの根拠としたり、考えを補強したりしているかを確認する。</p>

	<p>い理由を意見書として書く（下書き）。</p> <p>○ 各自の下書きをグループで読み合い、学習課題に示された目標や学級で共有した条件に沿って相互評価を行い、よりよい意見書とするために助言をしよう。</p> <p>○ 振り返りを書く。</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・ 共感した点や自分の知識や経験と結び付けられる点 ・ 現代の人間や社会（の在り方）と結び付けて考えたこと。（理想の人間像，社会像や教訓にできること等） ・ 教科書に掲載する理由 <p>○ 引用をする際には、「書くこと」において学習してきたことを想起させる。（目的や自分の考えとの関係等）</p> <p>○ 相互評価は目標や条件に沿って、相手の良いところや、改善するとよいところを見付けるように促す。（評価するのは、誤字脱字の有無や表現の巧拙ではないことに留意させる。）</p> <p>○ 評価や助言をする際には、学習改善に役立てられるよう、ワープロソフトのコメント機能等を用いて記録が残るようにする。</p> <p>○ 振り返りに自分の意見書について、改善しようと思う点や改善のために次の時間に自分が行うことを記入させる。</p>	<p>（思）「意見書」の下書き</p> <p>この学習場面では特に取り上げた一節の内容と、現代の人間や社会とを結び付けているかを確認する。</p>
4	<p>○ 前時の相互評価を受けて下書きの加筆・修正をする。</p> <p>○ 加筆・修正した下書きに基づいて、教科書に掲載するのにふさわしい「論語」の一節についての意見書を書く（清書）。</p> <p>○ 清書した意見書をグル</p>	<p>○ 加筆・修正した箇所は色を変えたり、コメント機能で変更した意図や理由を記入させたりするなどして、推敲の経緯が分かるようにさせる。</p> <p>○ どのように直したらよいか分からないという生徒には、改善できている生徒の意見書を参考にさせたり、適宜助言をしたりする。</p> <p>○ 清書は改めて書くのではなく、下書きに加筆・修正したものの構成や表現を整えていくことで清書するように説明する。</p> <p>○ 500字～600字程度でまとめるように指示する。</p> <p>○ 「なるほど」「確かにそうだ」と</p>	<p>（思）「意見書」</p> <p>次の2点について確認する。</p> <p>(1) 取り上げた一節の内容に基づき、理由を挙げて自分の考えを述べているか。</p> <p>(2) 取り上げた一節に表れているものの見方や考え方と</p>

<p>ープで読み合い、前時に共有した条件に基づいて感想を述べ合う。</p> <p>○ 単元の学習を通して考えたことや学んだことを振り返りとして書く。</p>	<p>思った点について感想を述べ合うようにさせる。</p> <p>○ 時間があれば、グループの代表に意見書の内容を発表させ、学級全体で共有する。</p> <p>○ 学習課題に取り組むに当たって、特に試行錯誤したことや、重要だと思ったことなどを記入させる。</p>	<p>現代の人間(あるいは社会)とを結び付けて、自分の考えを広げたり、深めたりしているか。</p> <p>(主) 「振り返り」、「意見書」及びその推敲履歴</p> <p>前時の交流やその後の修正において、学習課題に沿って試行錯誤したり工夫したりしながら、取り上げた一節に表れているものの見方や考え方と現代の人間(あるいは社会)とを結び付けて、自分の考えをもととしているかを確認する。</p>
--	---	---

12 「思考・判断・表現」の観点について「概ね満足できる状況(B)」と判断される文章の例

<p>【掲載したい論語の一節】</p> <p>子曰く、「人の己を知らざるを患へず、人を知らざることを患ふ。」と。〔学而第一〕</p> <p>(訳) 先生が言われた、「人が自分を知ってくれないことを気にかけるのではなく、(自分が)人を知らないことを気にかけることだ。」と。</p> <p>【説明】</p> <p>この「論語」の一節は、生徒の経験に重なる所が大きく、現代に生きる人間の在り方と結び付けて考えるのにふさわしい一節だと言えます。</p> <p>中学三年生ともなると、学校内でも上級生ということもあって、周りから認められたいという気持ちが勝りつつも、簡単には認められずもやもやしている人も少なくないと考えられます。</p> <p>私も中学三年生のころ、部活で一生懸命練習しているのになかなかレギュラーになれず、なぜ認めてもらえないのかと悩んでいました。しかし、孔子の「人を知らざることを患ふ」という一節を読んではっとしました。</p> <p>この言葉は、自分が認められないことを嘆くより、他人を認めよということとを伝えていきます。私はこれを読んで、周囲に認めてもらう前に、もっと他人の良いところを見付けて学ぶ姿勢をもつことが大切だと思いました。</p> <p>こうしたことは、中学校生活に限らず、その先の様々な場面においても通じることだと思えます。例えば、SNSの発信や仕事において、認められたいという気持ちが強すぎてトラブルになったり、悩んだりするということを聞いたことがあります。そのような時に、まず他人を認めるという視点をもつと考え方も変わってくると思えます。</p> <p>このように、この一節は生徒に大切なことを示してくれるところがあるため、教科書に掲載するとよいと考えます。</p>
--

〔「概ね満足できる状況（B）」と判断するポイント〕

評価規準の「文章を読んで考えを広げたり深めたりして、人間、社会などについて、自分の意見をもっている」に照らし、次の二点を判断のポイントとする。

○取り上げた一節の内容に基き、理由を挙げて自分の考えを述べている。（傍線部分）

○取り上げている一節に表れているものの見方や考え方と現代の人間（あるいは社会）とを結び付けて、自分の考えを広げたり、深めたりしている。（波線部分）

〔「十分満足できる状況（A）」と判断する例〕

「概ね満足できる状況（B）」と判断されるもののうち、次に示すような、他の一節やこれまでに読んだ古典等と比較して考察がみられる場合は、「十分満足できる状況（A）」と判断する。

現在の教科書に掲載されている「人知らずして慍みず、亦君子ならずや。」も、同じようなことを述べているといえる。同じようなことを再び述べるということは、孔子がそれだけ大切なことだと考えていたのかもしれない。また、私が選んだ一節は「人を知らざることを患ふ。」ということまで述べているので、こちらと合わせて読むことによって、孔子がどのようなことを伝えたかったのかが分かりやすくなるのではないかと考えた。

13 2・3時間目の「思考・判断・表現」の観点が「努力を要する状況（C）」と判断される生徒への手立て

「意見書」（下書き）の記入状況を見て、「～（一節の内容）は、現代の人間にも当てはまる。」などだけ書き、考えを具体的に書けていない生徒には、例えば「この一節のどのような言葉からよいと思ったのか。」「なぜその言葉に自分は引き付けられたのか。」「同じような経験をしたことはないか。」などと問い、生徒の思いや考えを引き出しながら、ふさわしいと考える理由を具体的にさせていく。必要に応じて、指導者が用意した事例や他の生徒の例などを示し、どの程度具体的に書けばよいのかを理解させる。